

Q15

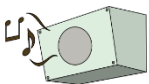
高校入試や大学入試の際、難聴のある中学生や高校生は
どんな合理的配慮を受けることができますか？



高校入試も大学入試も出願前に申請手続きを行うことで、試験時に合理的配慮を受けることができます。下の表は、過去の先輩達がお願いした配慮の例です。

＜高校入試＞

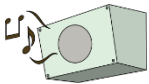


どんな場面	どんな配慮を受けたか
●全体説明・ 学科試験 	- 補聴器・人工内耳の持ち込み、装用を許可してもらう。 - 予備電池の持ち込み、電池切れの際の交換操作を許可してもらう。 - 席を前の方にしてもらい、口元が見えるようにする。 - 試験官に補聴援助システムを使用してもらう。 - 急な連絡や変更事項は文章メモで個別に伝達してもらう。
●英語のリスニング 	- スピーカーの近くの席にもらう。 - スピーカーの近くに補聴援助システムを置いてもらう。 - 音声が聞こえやすいよう、別室で試験を受ける。 - 別室にて、音声に替えて字幕テロップを流してもらう。 - ヘッドホンを使用する。
●面接 	- 自分の番が来たら呼びに来てもらう。 - 面接官との距離を近くしてもらう。 - 集団面接を個別面接に変更してもらう。

＜大学入試（大学共通テスト）＞



申請には所定の主治医作成の「**診断書**」が必要です。

どんな場面	どんな配慮を受けたか
●全体説明・ 学科試験 	- 補聴器・人工内耳の持ち込み、装用を許可してもらう。 - 予備電池の持ち込み、電池切れの際の交換操作を許可してもらう。 - 席を前の方にしてもらい、口元が見えるようにする。 - 急な連絡や変更事項は文章メモで個別に伝達してもらう。
●英語のリスニング 	<u>リスニング試験の免除。</u> 在籍校作成の「状況報告書」が必要です。 - 音声が聞こえやすいよう、別室で試験を受ける。 - ヘッドホンを使用する。 - CD プレイヤーに補聴援助システムを有線でつないでもらう。 ！ 要注意！ 盗聴防止の観点から、大学共通テストにおける補聴援助システムの持参・使用方法は厳格に定められています。

<大学入試（個別学力検査）>



どんな場面	どんな配慮を受けたか
●全体説明・ 学科試験 	・補聴器・人工内耳の持ち込み、装用を許可してもらう。
	・予備電池の持ち込み、電池切れの際の交換操作を許可してもらう。
	・席を前の方にしてもらい、口元が見えるようにする。
	・急な連絡や変更事項は文章メモで個別に伝達してもらう。
●面接 	・自分の番が来たら呼びに来てもらう。
	・面接官との距離を近くしてもらう。
	・試験官に補聴援助システムを使用してもらう。

オープンスクール・オープンキャンパスなどの機会を利用して、心配なことを事前に相談したという人が多いいました。

基本的には現在受けている配慮を試験でもお願いすることになります。普段からどんな配慮を受けているのかを意識しながら学校生活を送るようにしましょう。また、必要があれば現在通っている学校と相談し、事前に配慮方法の変更や改善を試みておくことも必要になります。どんな配慮があれば自分の実力を十分に発揮できるかを把握しておくことが重要です。

《申請手続きについて》

高校入試の配慮申請は、在籍している中学校を通じて志望する高校にお願いすることになります。申請に際して、学校（主に担任）に書類を書いてもらうことになります。関係の先生たちとよく相談し、申請する内容をまとめておくとういでしょう。

詳細につきましては、公立高等学校は「群馬県立公立高校学校入学者選抜実施要項」を、私立高校は各学校 HP 等をご覧ください。



大学入試では受験生自身が申請を行います。また、共通テスト・志望大学それぞれに申請をする必要があり、申請時期や必要書類が異なるため注意が必要です。こちらも必要に応じて学校（担任）や主治医に一部書類の作成をお願いすることになるため、関係する方々とよく相談して作成しましょう。

大学共通テストの配慮申請につきましては、大学入試センターHP 上の「受験上の配慮案内（PDF 形式）」をご覧ください。

それ以外の申請については各大学 HP 等にてご確認、お問い合わせください。

